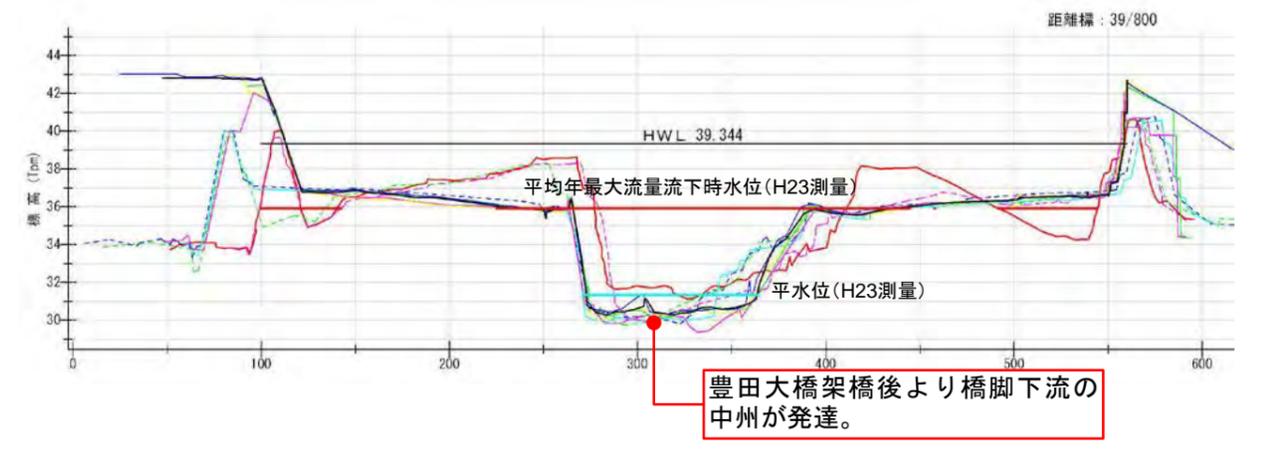
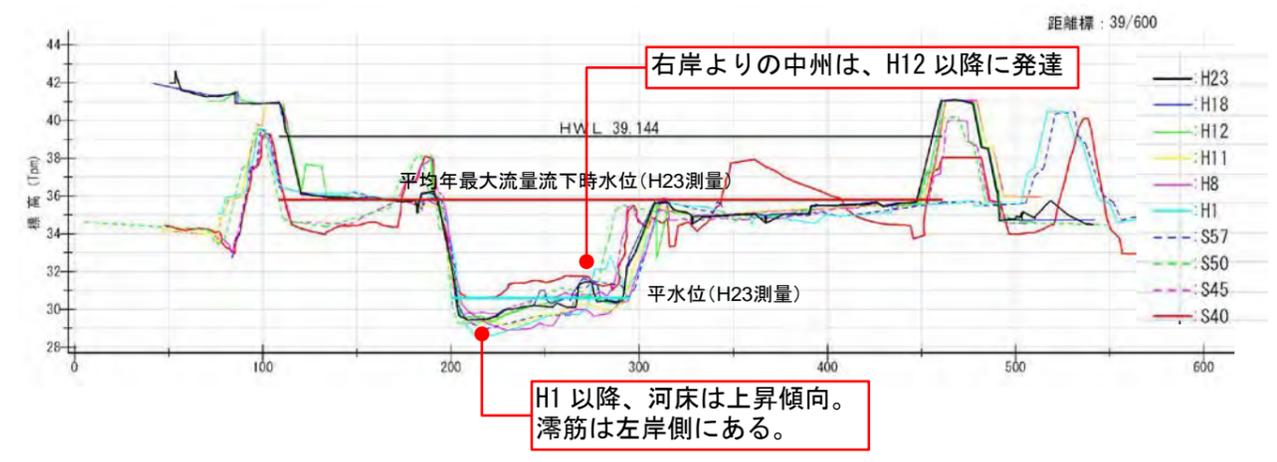


■ 河道横断面図経年変化



豊田大橋下流には、豊田大橋の架橋後に発達 (次頁の 39.8k 横断面図参照) した中州を境として、大きく 3 つの瀬 (S7、S8、S9) が形成されている。S9 の瀬は、中州下流に形成された浅瀬部で、水深 (3/11 時点) は 15~30cm 程度であり、目視でも広範囲に見られる。



アユ釣りの状況



瀬 (S₈) の状況

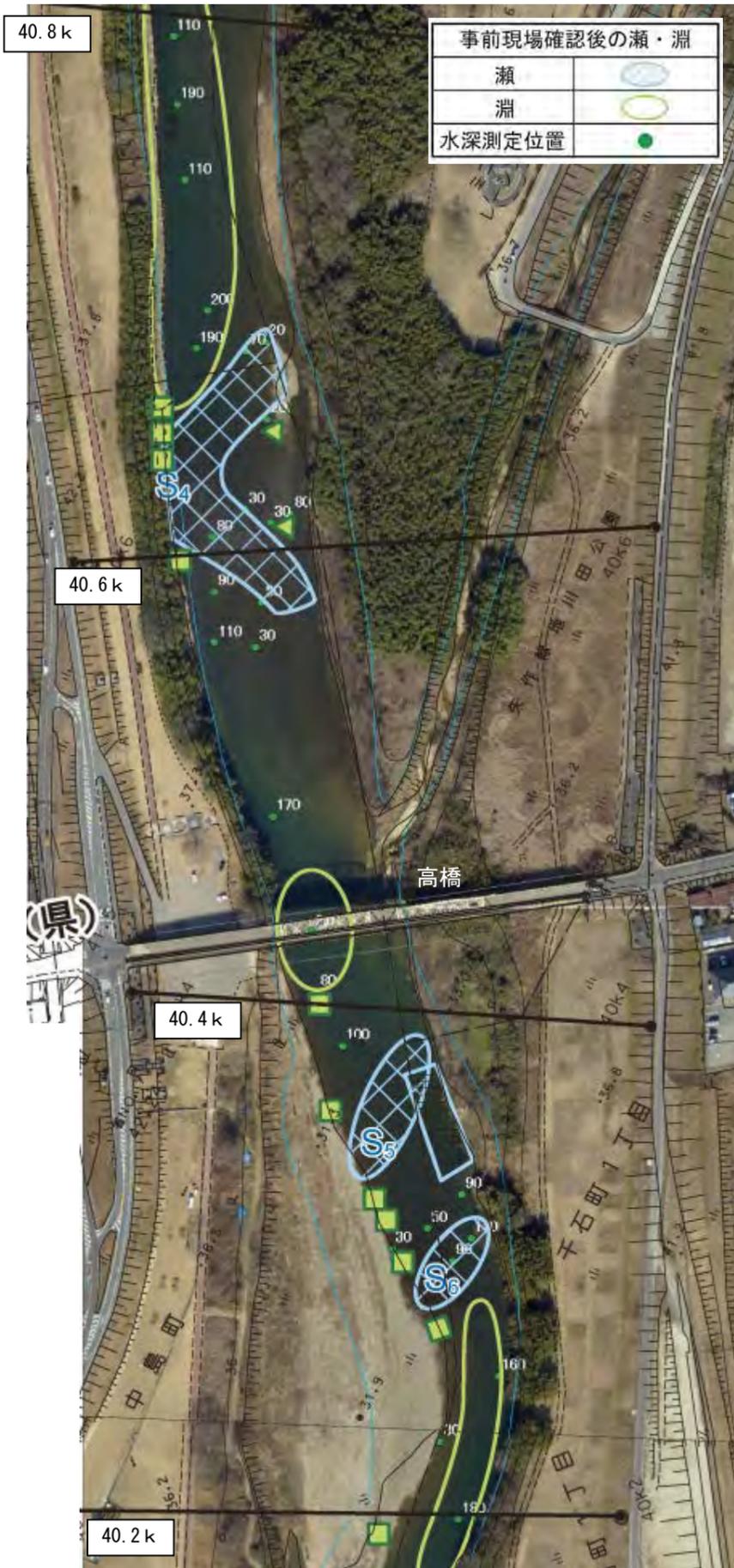


瀬 (S₇) の状況

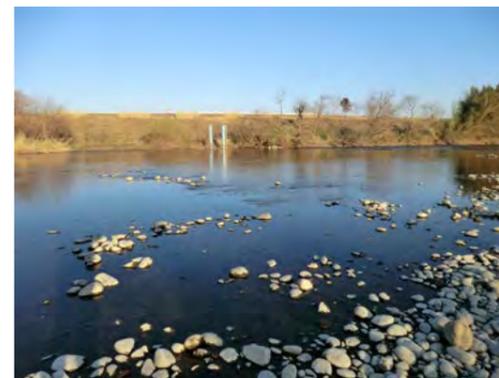


瀬 (S₉) の状況

2 40.2~40.8k 付近 (高橋上下流)



V 字形の瀬 (S₄) の状況



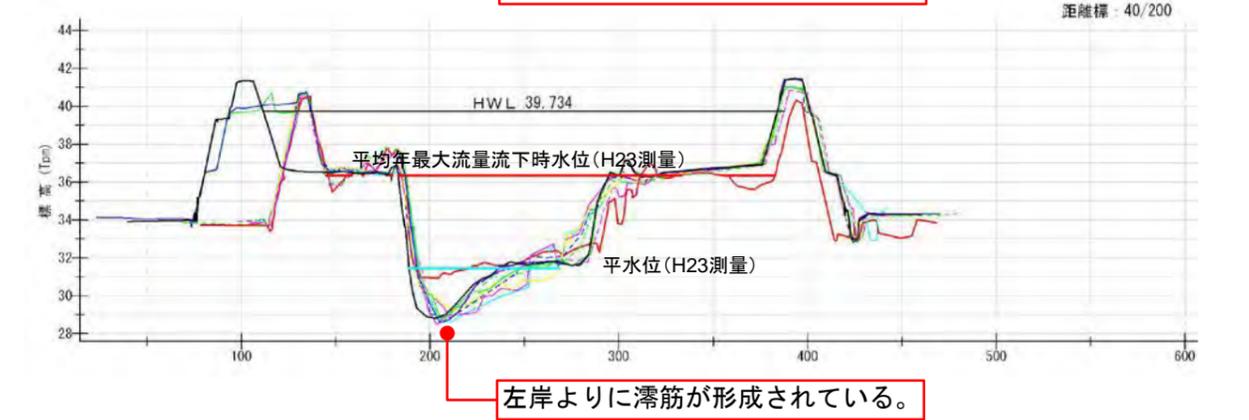
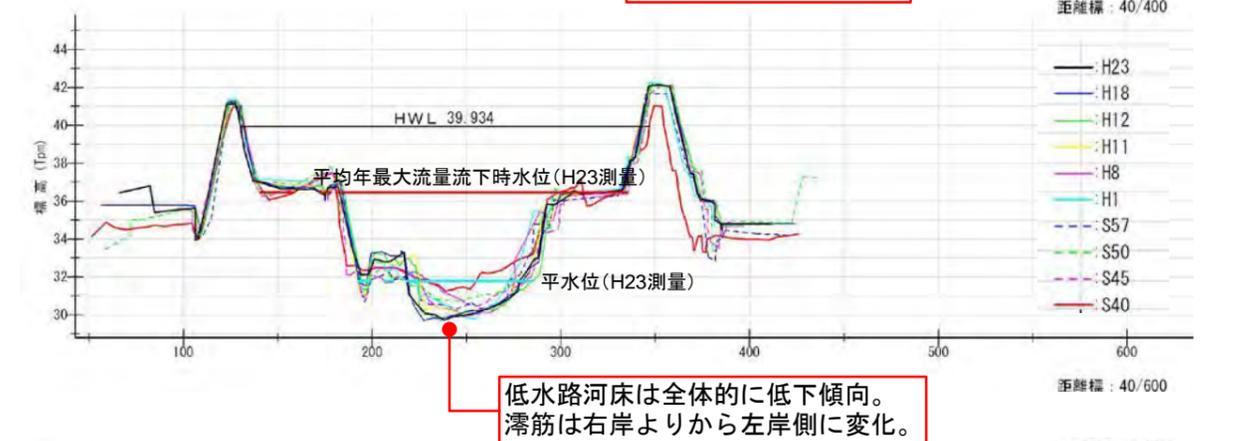
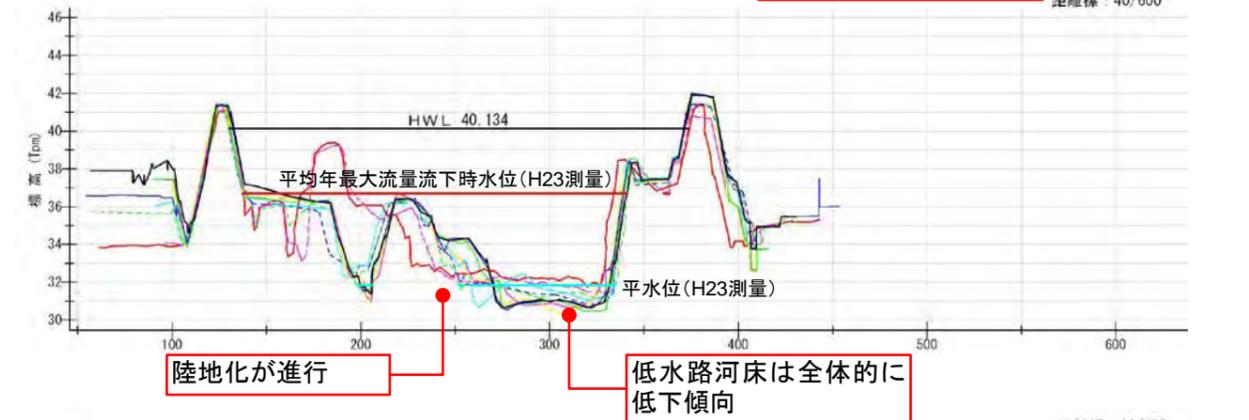
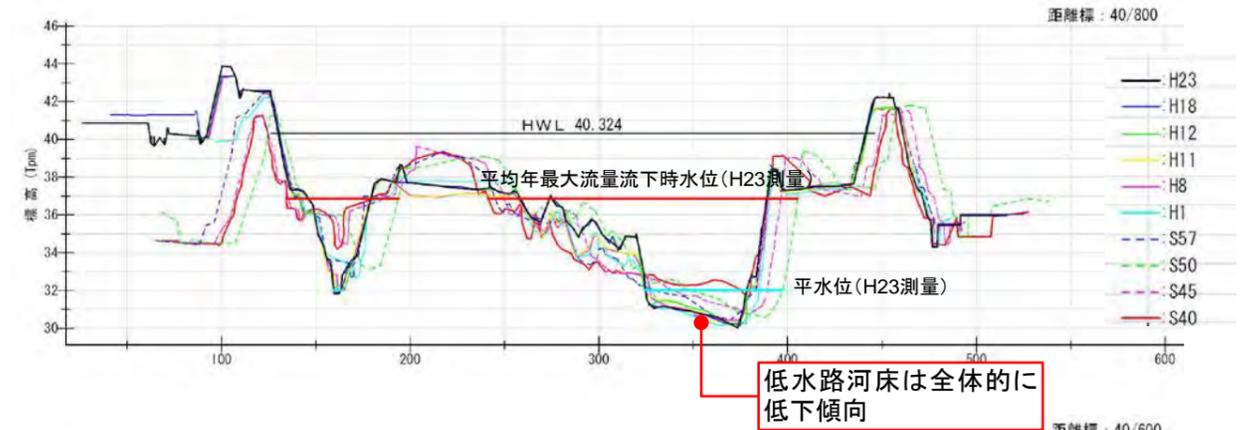
瀬 (S₅) の状況



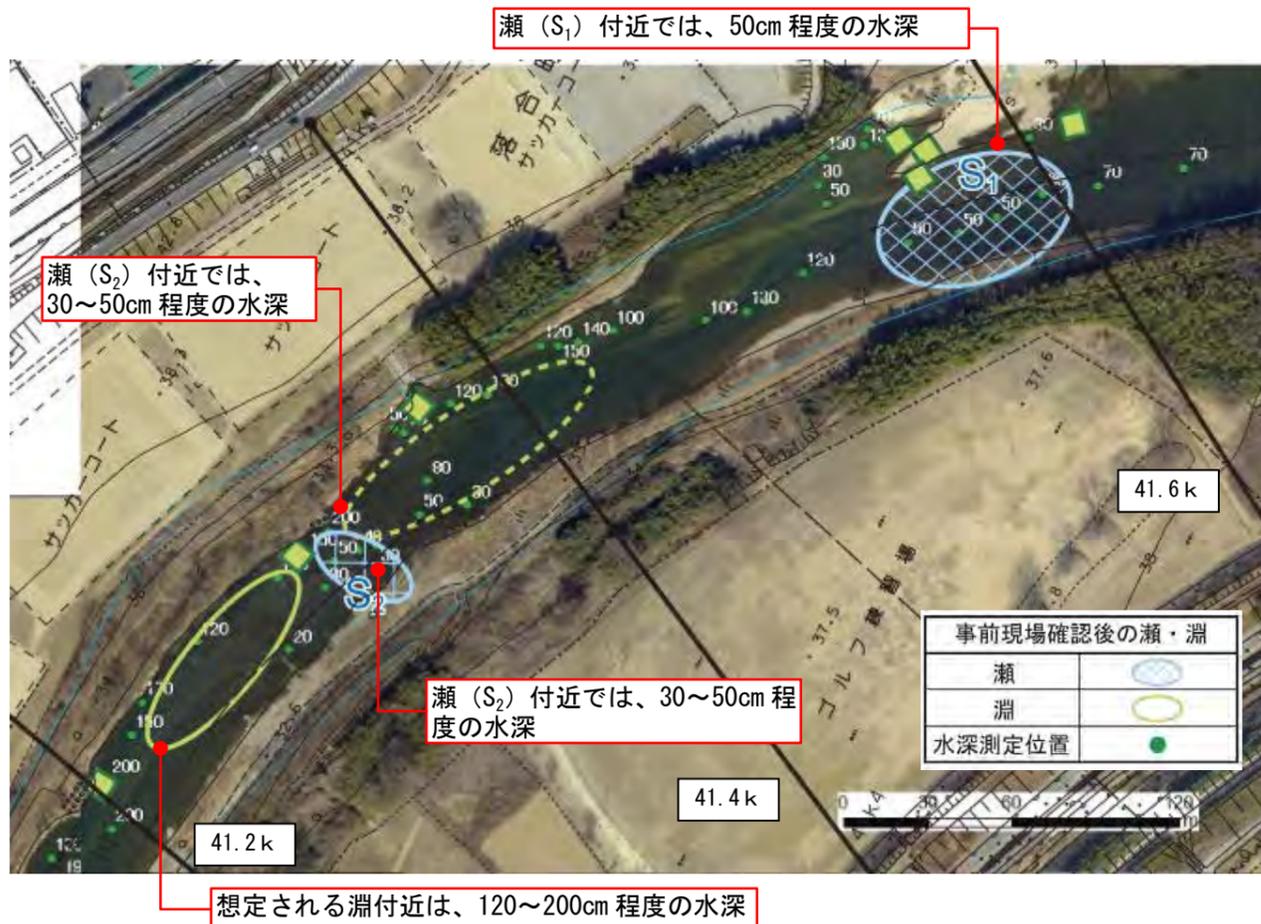
瀬 (S₆) の状況

高橋上流の 40.6~40.7k 付近に、V 字形の瀬 (S₄)、高橋下流の 40.2~40.4k 付近には、二つの瀬 (S₅、S₆) が視認された。瀬 (S₅) 付近の左岸側低水路河床にはブロックがある。(40.4k 横断面図を見ると滞筋は低水路の右岸よりから中央付近に移動している。)

河道横断面図経年変化



3 41.2~41.6k 付近（籠川合流点下流）



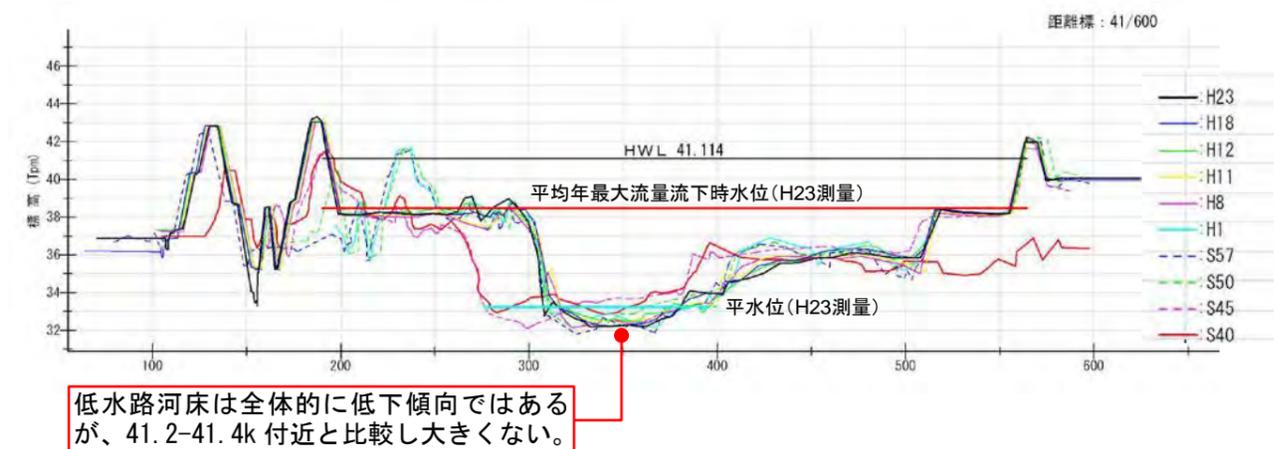
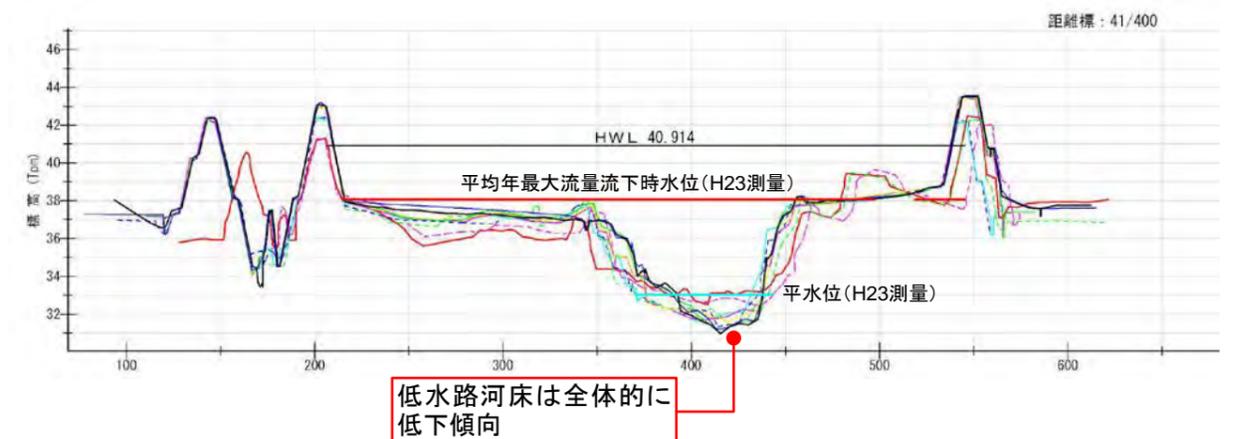
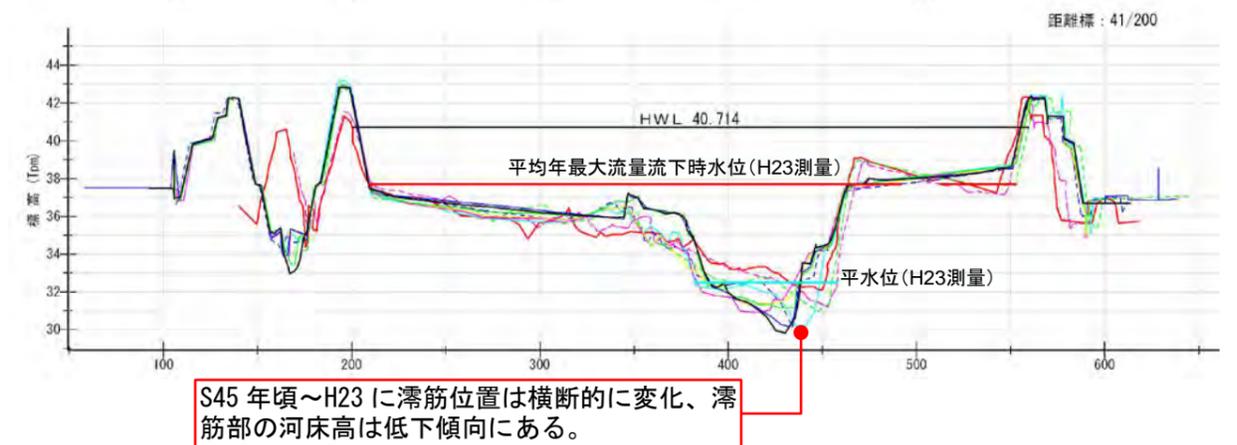
籠川合流点下流には、二つの瀬 (S₁、S₂) が視認された。瀬 (S₁) 付近では、縦断的に約 60m に渡って水深 (3/6 時点) は 50cm 程度、瀬 (S₂) 付近では、約 30m に渡って水深 (3/6 時点) は 30~50cm 程度で、白波が立つ瀬が明確に認識できる。

想定される淵は瀬 (S₂) の前後にあるが、瀬 (S₂) の上流側は、局所的に深い地点 (150cm 程度) はあるものの、41.4k 横断面図から淵というよりは、河床全体が経年的に低下傾向であることがわかる。一方、瀬 (S₂) の下流側では、41.2k 付近で水深 2.0m 程度が計測され、41.2k 横断面図の経年変化を見ると、経年的に淵形状が発達してきていることが想定される。

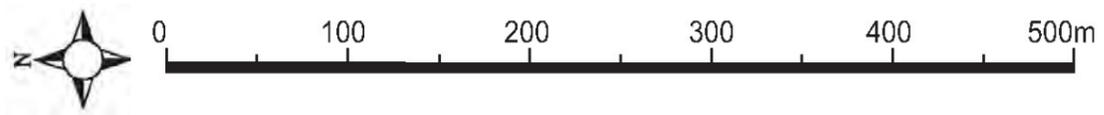
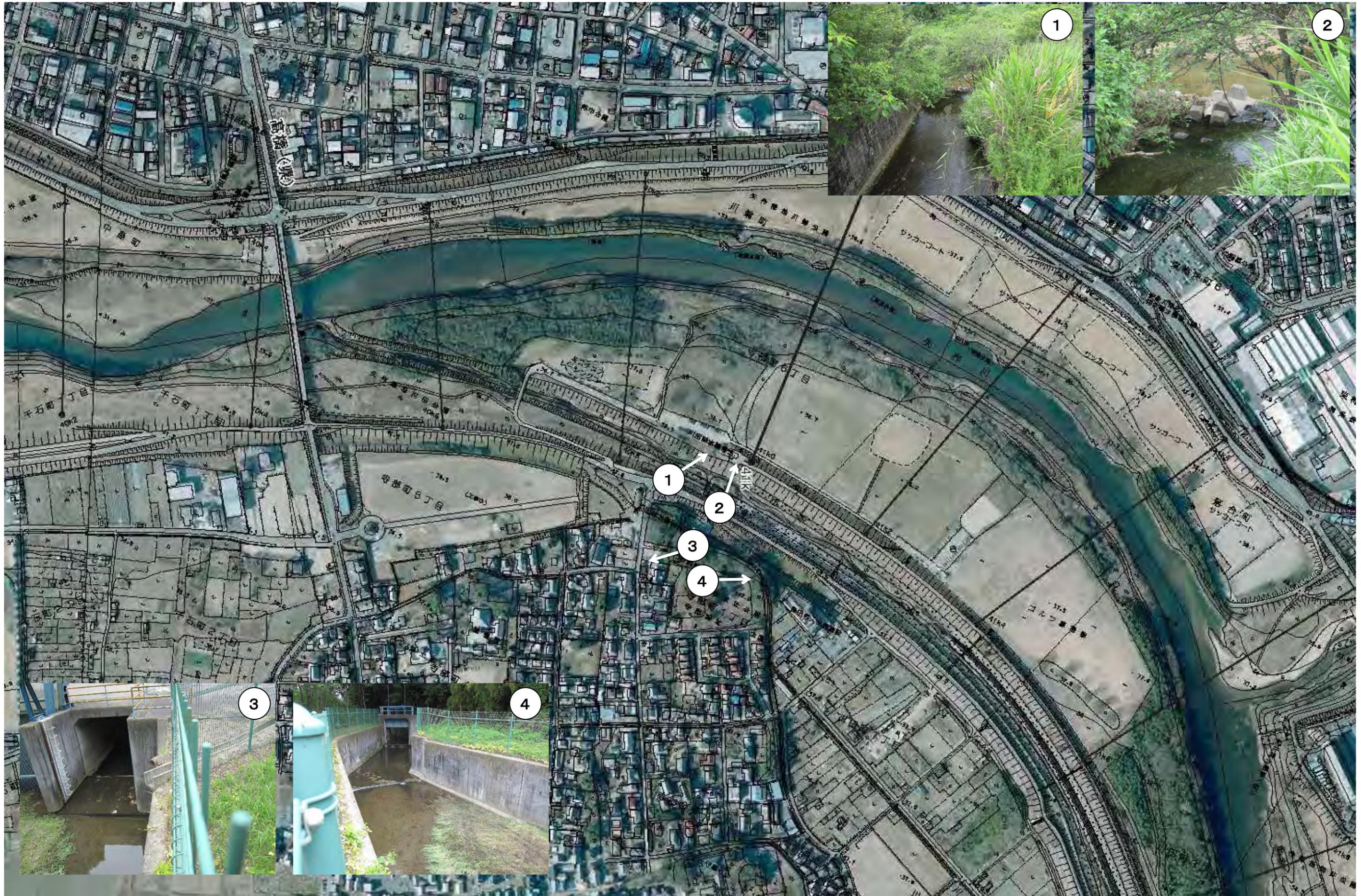


瀬 (S₁) の瀬頭付近

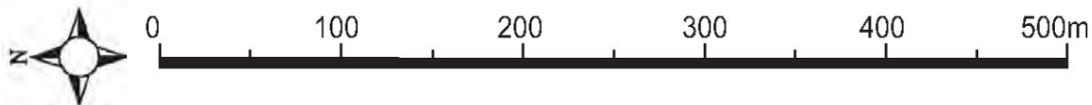
■ 河道横断面図経年変化



4 市木川合流点付近



5 加茂川合流点付近



加茂川・森恵水樋管合流部の状況



加茂川の上流の状況



加茂川水門の段差の状況

6 大見川合流点付近

